MIC 情報通信 vol.38

（2012年10月発行）

Intertek　MOODY INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel:06-6150-0571　Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ（http://www.moodygroup.co.jp）でご覧頂けます。

CONTENTS

1 「MIC情報通信とお客様交流会」

2 特集
3 経営者のためのISO再入門（1）
「裃姿のISOはやめて、普段着のISOでバリバリと改善を！」

4 MICニュース
- ●FSC CoC認証サービスを開始
- ●ISO27001内部監査員コースがスタート
- ●ISO国際水ワークショップ開催
- ●Q&A

5 審査の現場から
- ●お客様紹介（三菱製鋼株式会社）
- ●連載よみもの「審査員の心理」（環境編）

6 連載よみもの
- ●MICリレーエッセイ「サッカーと審査」（審査員　黒田 昭信）
- ●環境よみもの「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り
- ●「バス界の新幹線を目指す」（大阪バス株式会社）
- ●「喜んでいただける仕事を目指して」（湯澤工業株式会社）

8 研修コースのご案内
- ●ちょっといっぷく
- ●コースのご紹介/受講生からのお便り

「MIC情報通信とお客様交流会」

大阪事務所　品質/環境 主任審査員　美濃 英雄

いつも「MIC情報通信」をご覧いただきましてありがとうございます。

「MIC情報通信」は、お客様への情報提供やお客様とのつながりの一つとして発行を開始いたしました。2003年5月に第1号を発行し、翌年からは季刊発行として年4回定期的にお客様にお届けしてきましたが、来年で発行10年を迎えます。発行部数1800部からスタートした本誌は現在1万部近くまで発行部数を伸ばしていますが、それは正に弊社でご契約頂いているお客様数を表しており、ここまで継続発行できたのもひとえに皆様方のご支援の賜物と、これまでの皆様とのつながりに心より感謝申し上げます。

毎号複数のお客様にご協力頂き掲載させて頂いております。北は稚内、釧路から南は沖縄の離島までの様々な業種のお客様に自社のISO活動事例や審査での感想やご意見を頂き、紙面の充実にご貢献頂いております。

先日、審査でお伺いしたお客様は創刊号から全号保管されておられ大変懐かしく手に取りました。また本誌を社内の勉強会で参照頂いたり、社内で回覧頂いているお客様もおられます。バックナンバーは弊社HPより全号ダウンロード頂けますので、ご興味をお持ちの方はご覧頂けましたら幸いです。

また「MIC情報通信」同様にお客様とのコミュニケーションを主目的とした「お客様交流会」を全国各地で催しています。大阪事務所ではほぼ毎月実施しており、今年開催分で延べ66回を数え、約1600名の方々にご参加頂きました。ほとんどの回にご参加頂いている経営者様や管理責任者様、複数名でご参加のお客様もいらっしゃいます。交流会は、各回ごとに、QMS・EMSの活用法、内部監査、教育、経営者向け業界動向、お客様による事例紹介といった様々なテーマを設けて開催しております。弊社審査員や専門家による講義の後には質疑応答も行われますが、積極的な発言や活発な意見交換などもあり、こちらが刺激を受ける場面も多々ございます。

審査以外でもお客様との情報共有やコミュニケーションなど、皆様に参画頂ける機会を充実させたいと考えております。今後とも引き続き「MIC情報通信」、「お客様交流会」を宜しくお願いいたします。

経営者のためのISO再入門（1）

「裃（かみしも）姿のISOはやめて、普段着のISOでバリバリと改善を！」

ISO入門シリーズ第2弾です。ISO認証取得後、その活用法が見出せず、効果がないまま運用している状態の組織の声は多く上がってきます。マネジメントシステムの枠組みをどう取り入れていくかで改善効果は大きく違ってきます。通常業務の中にどうシステムを取り入れて運用していけばいいのかなど、次号にわたり改善方法について取り上げます。システムの見直しや新しい発見など、システム活性化に繋げて頂ければ幸いです。（編集部）

「裃姿のISOはやめて、普段着のISOでバリバリと改善を」　MIC主任審査員　松田 浩男

裃姿のISO

新しくISOの認証を取ろうとするときに、規格の文章をそのままマニュアルや規定に写しこんで形を作ることがよく行われてきました。「形式は整っているのだけれど、実は書いてあることの意味がよく分かっていない。分かっていないから効果が上がるように運用できていない」というケースです。

認証を取ってからも、いつも「裃（かみしも）」を着てしゃちほこばっている感じがして身になじまない。仕事は楽なカジュアル（従来通りの仕事のやり方）でやってしまう。そのためISOの基準から外れる点がいろいろ出てくるし、せっかくISOを取ったのに改善が進まない。「儀式（審査）用の裃を着たISOなので、普段の業務には役に立たない」という嘆きをお持ちの方が多いのではないでしょうか（審査員の嘆きでもあります）。図表1は、武士の裃姿と仕事着（火事装束）の例です。裃を着て討ち入りはできません。

図表1　武士の裃姿と火事装束
（左：裃姿、右：赤穂浪士の討ち入り衣装）

裃姿では討ち入りはできない（大事をなすことはできない）

出典ー左：http://www4.ocn.ne.jp/~isyo/name001.htm
右：http://chushingura.biz/gisinews07/news204.htm（模写：土居留湖南）

審査の目的

ここで、視点を審査する立場に変えてみます。9001、14001、27001などISOマネジメントシステム規格の第三者認証登録審査は、ISO17021（「適合性評価ーマネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項」、昨年改訂されて2011年版になりました）に従って実施されます。審査は、図表2に示す4項目を目的として実行しなければならないと定められています。

A）は、規格に「…しなければならない」と書いてあるすべての項目（ISO9001であれば、4.1～8.5.3）が満足されているかどうかを確認する行為で、初めて認証を受けるときに行われる「初回審査」の基本です。「不適合」を残したままでは認証は受けられませんので、「是正処置要求書」を発行し期限までに直していただくわけです。

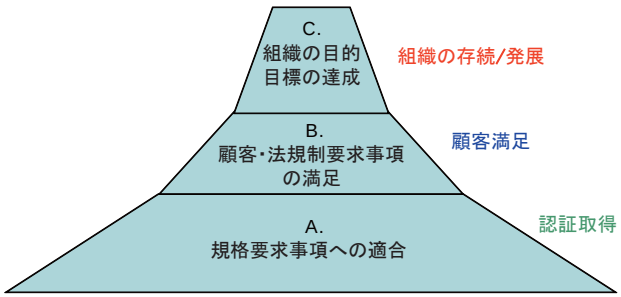
「裃」システムでは、マニュアルが規格の順番で規格と同じ言葉で書いてあることが多く、形を重んじる審査員に認められやすい傾向はあったと思います。特に初回審査では実績がなくても「仕組み」があれば良しとされることが多いので、ますます「裃」が流行ったのでしょう。しかし、引き続き毎年維持審査（サーベイランス）がありますので、いつまでも「仕組み」だけでは通りません。

図表2　マネジメントシステム審査の目的は何か？

A) 規格の要求事項への適合・不適合の決定
B) 顧客や法令規制事項を満足させる能力の評価
C) 自組織（自社）で定めた目的・目標を達成するのに有効であるかどうかの評価
D) 「改善の機会」を特定する（もしあれば）

以上が、ISO 17021:2011 に定められています。

図表3　マネジメントシステムの3段階
（審査で評価・決定される）



B）では、製品・サービスの実績を見ます。A）で不適合がなくても、「顧客苦情」や社内不良が多くしかも減らない場合には、B）に問題ありです。ISO9001で関係する項目はたくさんありますが、審査員はまず「8.2.1 顧客満足」、「8.5.2 是正処置」、「8.5.1 継続的改善」あたりを意識して問題の掘り起こしを行い、だんだん範囲を広げてシステムのどこに問題があるのかを探索し原因にさかのぼろうとします。普段着の活動での実績が問われるわけです。

C）では、マネジメントシステムが、会社（組織）の目的・目標を達成するのに、役に立っているのかどうかを評価します。「マネジメントシステム」とは、「会社（組織）の目的・目標を達成するための仕組み」ですから、目的・目標の達成に役立っていなければ、その仕組みは有効とは言えません。経営者として中長期や年度経営計画を達成しようと思ったら、この項目が有効でなければ話になりません。

普段着のISOで改善を進める

A）、B）、C）はこの順番にレベルが高くなり、会社の経営（組織の運営）に役立つと考えてよいでしょう（図表3）。ISOの認証を取ったからには、C）を目指すべきです。認証取り立てのA）から、 B）、 C）と上に登って行くにはどうしたらいいのでしょうか。**少しずつでいいから、「裃」システムになってしまっている部分を手直しして、「普段着」システムに近づけて行く**のです。日常の仕事が忙しくて「システム改善」のためにまとまった時間はとりにくいという嘆きもよく聞きます。しかし、いずれはやらなければならないことですから、経営者、管理責任者は決断しなければなりません。優先順位を付けて「手をつけやすい所、問題が多い所」から始め、日常的な活動として定着させるのです。

例を挙げてみましょう。
内部監査とマネジメントレビューは、規格がもっとも重要視している活動であり、実施されていなければ認証は取れないし、認証を継続するためには定常的に実施しなければなりません。両方ともISOシステム認証にチャレンジしない限りは実施しませんから、「裃」化しやすい活動でもあります。

「普段着型」で、B）を意識するにはどうしたらいいでしょうか？　次号でお話しします。

松田 浩男　（まつだ ひろお）
MIC品質主任審査員。
東京大学理学部卒業。
新日本製鐵及び関連会社にて、製品企画・開発、現場での実用化開発、品質管理、品質保証に従事。
東京都西東京市在住。

FSC CoC 認証サービスを開始

MICは今夏、米SCS社との業務提携に基づき、FSC CoC森林認証サービスを開始し、印刷会社2社様の審査を行いました。

FSC森林認証とは、ドイツの非営利・非政府組織FSC(森林管理協議会)が適切な森林管理を認証する国際規格のことで、森林そのものの責任ある管理を認証するFM(森林管理)認証と、FM認証された森林の林産物の流通・加工工程の同様な管理を認証するCoC(管理の連鎖)認証の2種類があります。MICのサービスに加わったのはCoC認証です。

FM認証された森林の林産物または木質製品(木材製品や紙製品)は、その所有権が、最終製品になるまでの流通・加工工程において、CoC認証を受けた事業者間だけでリレーされている限り、FSCの認証製品として扱われ、製品にFSCのラベルを付けることができます。

FSCラベルの付いた製品は、環境意識の高い企業や消費者に選ばれやすくなるので、事業者は、CoC認証の取得によって、森林保全という社会的責任を果たしながら、このグリーンなイメージを差別化戦略やブランド構築などに活かせます。

CoC認証の取得費用は、事業形態や認証の範囲・形式などによって異なります。ご興味がございましたら、東京本社までお問い合せ下さい。

ISO27001 内部監査員コースがスタート

MICではかねてからご要望の多かったISO27001の内部監査員コースを新設、金沢、東京での開催を終了しました。

ISO27001は国際的に広く活用されている情報セキュリティ規格です。組織が持つ情報は、災害、外部からの不正アクセスなど、常に損失、漏えい等の脅威にさらされており、その為のリスク対策としてISO27001に取り組み、情報という資産を守る企業が増えてきています。導入により企業のイメージを高めるだけでなく、顧客満足に配慮しているという証にもなります。

コースでは、規格解説をはじめ、内部監査に必要な基本的知識やスキルを習得します。具体的な監査ポイントや事例を通して学ぶ実践的プログラムになっていますので、これからシステムを構築される組織の管理責任者の方だけでなく、新たに内部監査を担当される方にも分かりやすく学んで頂けます。内部監査員の養成に加え、効果的な内部監査を行いたいという方にも最適です。次回は11月29-30日に大阪会場を予定、その他地区での開催も計画中です。認証取得も含め、ご興味がございましたら弊社までお気軽にお問合せ下さい。

ISO 国際水ワークショップ開催

「ISO国際水ワークショップ」が7月25-26日に下水道展との共同で神戸国際会議場等で開催されました。世界人口の増加や工業化の進展などに伴い水を取り巻く環境は変動しており、ISO(国際標準化機構)でも「水」を重要なテーマとして昨年3月の理事会で水に関係する標準化を検討していることから今回の開催が決まりました。

ワークショップのテーマは「世界的な水問題への挑戦-ISO規格が果たす役割」。水に関連する規格開発の認識の向上、規格開発に向けた提案と調査、そして規格開発の優先順位を特定するという目的の下、世界から多くの関係者が参加し、今後の取り組みについての議論が行われました。水については6月に開催された地球サミット(国連持続可能な開発会議、リオ+20)でも重要課題の一つとして取り上げられており、国際規格化による問題解決が期待されます。ワークショップの詳細は、ISOのHPをご参照下さい。(http://www.iso.org/)

Q&A

Q 関係会社で食品製造事業を行うことになり、現状のQMSの拡張か、他のシステムの導入かで迷っています。どの規格が良いのでしょうか?

Answer

食品メーカーで多く取得されている規格としては、ISO9001(品質)、ISO22000(食品安全)が挙げられます。2010年発行のFSSC22000(GFSI-国際食品安全イニシアチブ-が認めた食品安全システム)への関心も高くなっています。規格の選択は取得目的により異なります。目的を明確にすることで取得後の効果も違ってきますので、例を参考に社内で検討してみてください。

例)・作業効率・品質及び製品の安全性を高めたい、経費を削減したい、など → ISO9001
・製品の安全性を高めたい、工場の施設・設備の衛生環境を改善したい、など →ISO22000
・顧客からの取引要件を満たしたい →ISO9001、ISO22000、FSSC22000 など

ISO9001は顧客満足を高める(=良いサービスを提供する)ための仕組みであり、広義での「品質」向上を目指すもの、ISO22000はHACCPの仕組みにISO9001のPDCAサイクルを組み合わせたものになります。HACCP対応の新しい設備・機械の導入への負担や不安の声も時にありますが、システムとしてハード(機械・設備)よりもソフト面(人と仕組み)を考えることがポイントです。

FSSC22000は、ISO22000にISO/TS22002-1(前提条件プログラム)が追加され、より安全で消費者の信頼を強化するものになっています。国際基準の衛生管理としてグローバル食品企業・大手食品小売業者などからの取引要件を満たす目的でも多く活用されています。取得に関する疑問や不明点などがありましたら、弊社までお気軽にご相談ください。

お客様紹介

審査の現場から

三菱製鋼株式会社 ばね事業部　様

（ISO9001:2008 認証登録）

MIC審査員　美濃 英雄　*Hideo Mino*

三菱製鋼株式会社様は、国内唯一の素材から製品までの一貫したばねメーカーです。1904年に日本で初めて工業的なばねの製造に成功され、その後も約1世紀にわたり用途に適応した技術開発と徹底した品質管理のもと、高性能な製品造りに取り組まれています。

ばね事業部様では、2003年にISO9001を他審査機関で取得、2009年にMICへ審査機関変更されました。

前回の維持審査で拡張された精密部品事業部では、長年社内で培ってきた技術を結集し、精密ばねの単品から組み立てまで、広範囲な商品を手掛けられています。お客様のニーズに応えて、開発段階での設計や解析など、技術的な支援も積極的に行われ、また海外拠点では、現地調達にも対応出来る体制を整えられています。

審査では、プロセスアプローチを強く意識した活動が展開されていることが伺え、各部門での積極的な取り組みが見られました。

① 改善提案制度が定着し、予防処置的内容の提案まで推進

② クレームに対する要因分析・なぜなぜ分析の実施、治具製作・標準書類の改訂等、是正処理も十分に遂行

千葉製作所外観

③ 各部門での教育訓練実施計画書に基いた十分な教育・評価

④ 営業部での積極的なVA活動の取組み

⑤ 製造部での各サークル毎の品質FRBトレーニングの実施、リスク管理への取組み

顧客満足の向上とシステム改善を目指して意欲的に活動されている同社の今後の益々のご発展を期待します。

連載読み物

審査員の心理

第10回（環境編）

「開始ミーティング」

MIC 環境主任審査員　大村 敏夫　*Toshio Omura*

審査は開始ミーティングから始まります。開始ミーティングは、審査を進めるにあたっての約束事を確認する儀式とみることができます。これからの審査に対応していただく、経営層から実務担当者の方に出席していただきます。最初に参加者名簿を回して署名していただきますが、これは審査の約束事について了解したという意味合いもあります。しかし、たとえ審査中に意見の相違が発生したとしても、ここで署名したことを盾にして、審査員の意見を通すようなことはいたしませんので、ご安心ください。

開始ミーティングでは、審査員の自己紹介から始まります。場合によっては、これから審査を受ける側の方々からも自己紹介してもらうこともあります。

審査員側からの約束として、守秘義務のあることを説明します。審査の中で知り得たことは、機密情報として扱うことの約束の下で、企業秘密に関わることでも開示していただきたいというお願いでもあります。次に、審査の要件の確認をとります。審査の基準、認証範囲、組織の人数など、事務所から連絡を受けた情報に相違が無いか確認します。続いて、審査の目的や進め方、プログラムの内容を説明します。案内役の方を手配していただくことや、コンサルタントの方が同席する場合はオブザーバーとして発言は控えていただくこともお願いしています。次に、審査の結果としてどのような所見が出るか、不適合が出た場合のランク分けと対応方法などについて説明します。最後に、終了ミーティングへの皆様の参加の確認をし、質問があればお答えします。以上、形式的ではありますが、開始ミーティングで必須事項を確認してから、実際の審査に入っていきます。

MICリレーエッセイ㊱

審査員からのエッセイをお楽しみください。

埼玉県熊谷市

From 埼玉県熊谷市
黒田 昭信
（くろだ あきのぶ）

PROFILE

専門分野　ISO9001 － 機械、機械部品

経歴　ヂーゼル機器株式会社 東松山工場、ZEXEL 江南工場、MIC審査員（現職）

「サッカーと審査」

香川真司を知っていますか。今年の7月からイングランドのマンチェスターユナイテッドに移籍した、世界的サッカープレーヤーです。私も中学高校とサッカーをやりました。当時は芝生のグラウンドはなく、校庭は石ころだらけで、試合中にスライディングして腿の外側をよく擦りむいていたものです。サッカーボールも学校に1つか2つしかなく、指導者もいなかったので、自分達で本を読みながら工夫したものでした。左足でもボールを蹴れるような練習も一人でやりました。懐かしい思い出です。

審査の場でも、技ありのシュートを決められる様、周囲の変化を感じとれるセンスと、対応して動ける体力を維持したいと思っております。

連載「環境とISO14001」㊱

第36回「紛争鉱物」

MIC環境審査員顧問　郷古 宣昭　*Nobuaki Goko*

前回はCSRの新潮流について概説しましたが、紙面の都合上広範な内容を短く要約したためわかりづらい部分があったかもしれません。今回は「リスクマネジメント」を取り上げる予定でしたが、予定を変更してCSRについて具体的な例で説明し、理解を深めることとします。

「紛争鉱物（Conflict minerals）」とはアフリカ等の紛争地帯で採掘された鉱物資源を示します。このような地域では鉱物資源が紛争当事者の重要な資金源となって紛争を長引かせているのみならず、子供がさらわれて少年兵として前線に送り込まれたり、劣悪な労働環境の下で強制労働を強いられていて、人身売買や賄賂、密輸も日常的に行われているそうです。これらの地域の多くが生態系に深刻な被害を受けています。金の鉱石1トンから採取できる金は1.5gに過ぎず、残りは廃棄物として河川に排出され、しかも猛毒の青酸を発生させるシアン化ソーダが使用されています。（これらの人権問題、環境問題については資源ジャーナリスト谷口正次氏の著書に詳しく記されていますし、レオナルド・ディカプリオ主演の映画「ブラッド・ダイヤモンド」でも垣間見ることが出来ます。）

このような状況に対してSRI（社会的責任投資）を発展させた米国の投資家たちが動き、2010年7月に**「米国金融改革法」**を成立させました。これにより、**自社製品に紛争鉱物を使用している製造業者は鉱物の原産地を開示する義務を負う**ことになります。この法による当面の対象鉱物は**コンゴ民主共和国及びその隣接国から産出される金、スズ、タングステン、タンタル**であり、これに**コバルト**が追加される可能性があります。ただし、「紛争鉱物」はコンゴ民主共和国で産出される鉱物に限ったことではなく、ザンビア、ジンバブエ、ニジェール、ギニア、インドネシア、オーストラリア、フィリピン、パプアニューギニア、ブーゲンビル、グアテマラ、コロンビアなどで産出される鉱物にも、地域紛争・部族紛争と絡んで様々な人権問題が発生しているといわれています。

上記の金属は携帯電話、パソコン、航空機器などハイテク分野をはじめ、装身具にも使用されています。**CSR規格ISO26000**はサプライチェーン管理を通して原材料を調査することを求めており、製品に使用している鉱物の原産国、必要により、採掘鉱山まで調べる必要があります。また、ISO26000は中核課題として人権、環境、労働を取り上げています。原材料鉱物が国際行動規範に合致しない鉱山で採掘された鉱物であること、即ち、人格、環境、労働に問題があることが判明しているにも拘らず、何も対応しない場合、組織は不法行為や非人道的行為に間接的に加担していると見なされます。

アナン元国連事務総長の**「グローバル・コンパクト」**の10原則は、外資による資源開発で行われた非人道的、環境破壊的なことの改善を促すために発意したものと言われていますが、今では、人権や環境に関して最も基本的な国際行動規範として定着しています。

グローバル・コンパクトの10原則

人　権	原則 1.	企業は国際的に宣言されている人権の擁護を支持・尊重する
	原則 2.	人権侵害に加担しない
労　働	原則 3.	組合結成の自由と団体交渉の権利の確保
	原則 4.	強制労働の排除
	原則 5.	児童労働の廃止
	原則 6.	雇用と職業の差別の撤廃
環　境	原則 7.	環境問題の予防的アプローチの支持
	原則 8.	環境に関するイニシアチブ
	原則 9.	環境にやさしい技術の開発と普及促進
腐敗防止	原則10.	強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止

お客さまからのお便り

バス界の新幹線を目指す

大阪バス株式会社（ISO9001:2008 認証登録）
乗合バス事業部 営業企画課長　増田 浩之

大阪バスグループ（本社：東大阪市）は、北海道から神戸まで各拠点で貸切バス業務を展開しています。貸切バスの保有台数で国内最大手グループの中核となる当社で、2010年ISO9001を取得しました。昨年、大阪（布施、長田）－京都間の高速バス路線を開設、今年は、大阪（天王寺、布施、長田）－名古屋間、さらに、大阪（布施、天王寺、大阪）・京都－東京・王子間の路線も拡充しています。

最近、低価格の夜行ツアーバスによる事故が問題になっています。当社の高速バスは国土交通省より許認可を受けた「乗合路線バス」ですから、安全確保と法令順守は高い水準に保たれています。安全性能では衝突被害軽減ブレーキシステム・車線逸脱警報装置・横滑り防止装置・ドライブレコーダー搭載と、特に東京便は新型車両3列シートで、到着地の提携先での割引サービスも充実しています。

いずれも新設路線の為、しばらくは比較的余裕のある乗車を頂けると思います。一度ご利用頂きたいと思っております。

▶http://www.osakabus.jp/

喜んでいただける仕事を目指して

湯澤工業株式会社（ISO9001:2008、ISO14001：2004、OHSAS18001：2007 認証登録）
代表取締役　湯沢 基

当社は、山梨県の西部に位置する南アルプス市において、昭和33年創業の土木工事業と産業廃棄物処分業（1997年取得）を営んでおります。

南アルプス市は、日本第2位の高峰北岳を始めとする南アルプス連峰の麓に位置し、冬は寒さが厳しく、夏は気温が高いという盆地特有の内陸性気候です。また、南アルプスから流れる河川によって運ばれた土砂が堆積した扇状地を利用した、さくらんぼ、桃を代表とする果樹栽培が盛んな所です。

そんな環境の中で当社は、経営理念として、

・環境保護に努め、地域社会に奉仕する。
・技術と誠意でお客様に満足度を提供する。
・社員と共に成長し続ける会社を目指す。

を掲げ、以下をビジョンとして経営活動を行っています。

・地域社会になくてはならない企業を目指す。
・地球にやさしい、人にやさしい企業を目指す。

建設業界を取り巻く環境が厳しい中、公共工事も年々減少しており、当社においても同業他社との差別化を図り、生き抜いていくために、当社の特徴を生かした土木工事から発生した産業廃棄物処分まで一貫して自社で行うこと、当社の得意分野である重機施工の中の、砂防CSG工法、無人化施工に積極的に参入して行きます。

また、2003年7月にISO9001、ISO14001を同時取得し、今年6月に3回目の更新審査を受けることができました。9年間審査を経験したこともあってか、山梨県発注工事における優良工事表彰4年連続、国土交通省より事業継続計画（BCP）の認定、山梨県よりやまなし産業大賞、経営品質部門優秀賞を取得することができました。本当に感謝しております。

7月にはさらに、OHSAS18001の認証を取得しました。今後とも品質・環境・労働安全マネジメントシステムを通して当社の経営活動に取り組んでいきたいと思います。

▶http://www.yuzawakogyo.com/

ちょっと いっぷく

秋も深まり月がきれいに見える季節となりました。身近な天体である月は古くから人々に親しまれ生活とも深くつながっていました。現在の暦（グレゴリオ暦）は太陽暦と呼ばれるものですが、明治6年の改暦前は月の満ち欠けをもとに、季節を表す太陽の動きを加味した太陰太陽暦（旧暦）が使われていました。今でも旧暦に由来する慣習や行事なども残っていて、お月見もその一つです。十五夜は中秋の名月とも呼ばれ、1年で最も美しいとされます。中秋は旧暦の秋にあたる7～9月の真ん中の日、8月15日のことです。旧暦では、新月になる日を月の始まりと考え、次の新月までをひと月としていました。つまり、新月から日が経つにつれ月の形が変化して月の半ばで満月になり、そしてまた変形して次の新月で翌月に替わる仕組みです。十五夜は満月のイメージがありますが、月と地球の公転軌道の関係などから満月までの日数が13～16日の間で変動するため満月になる方が少ないそうです。ちなみに今年の十五夜は9月30日で昨年に続いて満月となりました。
尚、仲秋の名月の表現も見かけますが、「仲秋」は旧暦8月を指すため十五夜に限定すると「中秋」になるとのこと。ただ、今では同等の意味に扱われることもあるそうです。
お月見には他に、十三夜もあります。旧暦9月13日（今年は10月27日）の月は「後の月」とも呼ばれ、十五夜に次いで美しいと言われています。古来、十五夜と十三夜のお月見は対として考えられ、一方しか観ないと「片見月（かたみづき）」などと呼ばれ縁起がよくないとされていましたが、現在では十五夜のみの鑑賞が多いようです。
また、満ち欠けや月齢などにより月にはさまざまな呼び名が付けられています。例えば、十七夜は立って待っている間に出てくるから「立待月（たちまちづき）」、十八夜は座って待つ「居待月（いまちづき）」、十九夜はさらに月の出が遅くなり床で待つ「寝待月（ねまちづき）」と続きます。満月も満月でない月も、澄んだ秋空に浮かぶ姿を眺めるだけで風流な気分に浸れる気がします。秋の夜長、さまざまなお月様を楽しまれてはいかがでしょうか。（参照：国立天文台HP、大阪市立科学館HP）

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

内部監査員コース 9001/14001/18001/27001（2日間）

【開催地】 東京・大阪・富山・金沢・新潟・福井・他

【対象者】
- ●品質/環境/労働安全衛生/情報セキュリティマネジメントシステムの導入を予定/検討している
- ●システムをより効果的に運用したい
- ●効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

ISO9001 ：IRCA認定 審査員研修コース （5日間）

ISO14001：IRCA認定 移行型審査員研修コース （3日間）

【開催地】 東京

【対象者】
- ●審査員の目で内部監査を行いたい
- ●内部監査グループのリーダーに任命された
- ●将来審査員を目指している

～ 受講生からのお便り ～

ISO9001：2008 内部監査員研修コースを受講して

品質内部監査員コース（2012年6月秋田会場）受講
奥羽住宅産業株式会社 PCオペ　佐々木 梨佳

弊社は秋田県にある建築会社で主に住宅リフォームを行っており、ISO9001:2008の認証を取得しております。
私は今回ほとんど知識がないまま参加した為、研修についていけるかどうか不安でした。しかし、研修では内部監査の知識を学ぶだけではなく、テキストを使用しての実践的な内容まで分かりやすく解説していただきました。グループ演習では監査員と被監査員に分かれ内部監査を体験し実際の雰囲気をつかむことができました。他のメンバーに助けをかりる場面もありましたがとても良い経験になりました。ここで学んだことは今後生かしていきたいと思います。
最後に短期間でしたが、講師の先生や一緒に学んだメンバーに恵まれ充実した時間を過ごすことが出来たことにとても感謝しております。本当にありがとうございました。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm

◇ **東京事務所** 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル4F　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410
E-mail ： mi-certification@moodygroup.co.jp

◇ **大阪事務所** 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575
E-mail：mic-osaka@moodygroup.co.jp